

No.358  
令和2年1月

# 区政会館だより

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会への  
23区への取り組み

## オール世田谷で取り組む「レガシーの創出」



世田谷区



◀アメリカとのスポーツ交流(ペンス副大統領夫妻と)  
2017年4月19日、区立総合運動場

## 「わがまち杉並」を区民パワーでけん引

杉並区



特別区長会事務局  
特別区議会議長会事務局  
特別区人事・厚生事務組合  
公益財団法人特別区協議会  
東京二十三区清掃一部事務組合  
特別区競馬組合

▲多様性に富んだ杉並区永福体育館ビーチコート



## 世田谷区

## オール世田谷で取り組む「レガシーの創出」

2020年7月10日、47都道府県最後を飾る東京都の聖火リレーが、東京1964オリンピックの会場でもあった世田谷区の駒沢オリンピック公園中央広場からスタートします。その世田谷区は、56年ぶりとなる東京2020大会をレガシー創出のたのかけがえのない機会として、大会後を見据えた取り組みを進めています。

ようこそ！

ホストタウン世田谷へ

2020年の7月4日から8月27日まで、世田谷区ではアメリカ合衆国選手団のキャンプが予定されています。キャンプ地は、砧公園や世田谷美術館に隣接する区立大蔵運動場と大蔵第二運動場です。緑豊かな敷地内には体育館、陸上競技場、50メートルの温水プールなどの施設があり、選手村から直線で約15キロメートルとアクセスも良好です。

このキャンプで大きな役割を担うのが、区民ボランティアです。オリンピック・パラリンピックに参加するアメリカ合衆国選手団を受け入れ、つつがなく対応するため、ボラ

ンティアは英語でスムーズに對話できることが必須条件。ハードルは高めですが、メダル獲得の有力候補が多いアメリカのオリンピック・パラリンピアンを身近でサポートできるまたとない機会に、募集定員をオーバーする応募がありました。

区はこのキャンプ実施の決定をきっかけとして、2016年6月にアメリカ合衆国のホストタウンに登録されました。登録承認以降、アメリカゆかりの元プロ野球選手などによるスポーツ交流や、オリンピックメダリストによる水泳教室など、アメリカオリンピック・パラリンピック委員会やアメリカ大使館と連携した交流事業を活発に実施。こ

の交流を通じて、大会終了後を見据えた継続的な関係の構築を目指しています。さらに、2017年12月には都内で初めて共生社会ホストタウンにも登録され、「ユニバーサルデザインのみちづくり」「障害者スポーツの推進」「心のバリアフリー」という3つの課題に積極的に取り組んでいます。

これらのホストタウン登録をPRするために、区は独自にロゴマークを作成しました。桜をモチーフに世田谷の「S」を表し、赤と紺の星条旗カラーにアレンジしたロゴマークは、公募によって集まった500点を超える作品から選り抜かれ、区内小中学生により最終選考されました。ロゴに込められた想いは「心、つながり

と信頼、未来への発展」。大会が近づくにつれ、区民のホスピタリティを象徴するこのロゴマークが、区内外で活躍することでしょう。



SETAGAYA  
Host Town USA

区独自のロゴマーク

ハードとソフトの両輪で  
世田谷の魅力の世界に発信

東京2020大会では、世田谷区上野賀にある「JRA馬事公苑」でオリンピック・パラリンピックの馬術競技が開催されます。東京1964オリンピックでも馬術競技が

荒川区

台東区

文京区

千代田区

中央区

江東区

大田区

品川区

目黒区

渋谷区

港区

新宿区

実施された歴史ある会場です。馬事公苑には最寄り駅が小田急線千歳船橋駅と経堂駅、東急世田谷線上町駅、田園都市線桜新町駅と用賀駅の5駅があり、様々なルートでアクセス可能な立地です。しかし、どの駅からおおよそ1・5キロメートル程と多少距離があるため、ここでもボランティアのサポートが大きな力となります。区では世界各国から訪れる方々を、競技の観戦や応援だけではなく、区内の観光にも結び付けられるよう多言語によるボランティアの配置を予定しています。さらに5つの最寄り駅だけに限らず、三軒茶屋や下北沢など乗降客が多い駅にも配置する予定です。通常のボランティア登録は18歳以上と規定されていますが、区のボランティアは15歳以上がエントリーできるようにしました。高校生も含め、多くの区民へアプローチして、豊かな経験を次世代へと引き継ぐ契機となることを期待しています。東京2020大会

は世田谷の魅力の世界へ発信できる絶好の機会。区をあげての温かなおもてなしが、レガシー創出の一翼となることでしょう。

また、世田谷区では、馬事公苑周辺のまちづくりのガイドラインとなる「馬事公苑界わいまちの魅力向上構想（2017年3月）」を策定し、様々な取り組みを進めています。その一環として、2017年8月には馬事公苑周辺の案内標識などの整備を区民と一緒に考えるまちあるき企画「うままちあるき」を開催しました。



「うままちあるき」の様子

視覚障害者や車いす利用者も参加して、様々な視点から安全で歩きやすく、世田谷らしさが感じられるルートの提案や改善点などの検証を行いました。その意見を参考に、公

共施設や道路などのユニバーサルデザインや、サイン整備を進めています。そしてもうひとつ、歩くのが楽しくなる取り組みがあります。最寄り5駅から馬事公苑までの道路や公園に、使用済みの馬の蹄鉄を埋め込んだ平板ブロックを一定間隔で設置し、ブロックを辿って歩けば会場に到着できるというもの。クラウドファンディングで区の内外から寄附を募り、3万円以上の寄附者は蹄鉄入り平板ブロック



蹄鉄入り平板ブロックに名前を刻印したプレート

クに名前を刻印したプレートを取り付けることができるという趣向。自分や家族のプレートを探しながら歩く道のりは、きつといつまでも思い出に残ることでしょう。

区では、この他にもオリンピック・パラリンピアンによるスポーツイベントや、トークショー、馬術のバーチャル体験、ポニーとのふれあい、映画「東京オリンピック」の上映会など、節目の時期に合わせて多彩なイベントを開催しています。2019年10月には、区内の様々な事業者や区民団体等の参加による「おもてなし・交流・参加プロジェクト」を立ち上げ、200名を超える皆さんが一同に集まるキックオフ会を開催しました。区と区民が一つになり、「オーレル世田谷」で迎える東京2020大会は、世田谷区に、未来へのかけがえのないレガシーをもたらしたいことでしょう。





## 杉並区

# 「わがまち杉並」を区民パワーでけん引

聖火リレーが杉並区にやってくるのは2020年7月18日。東京都では10日に世田谷区からスタートし、一度、23区を出て市部を回ってからの到着となるため、まだかまだかと待ちこがれる区民も多いのではないだろうか。そんな聖火リレーをはじめ、杉並区では東京2020大会の価値を高め、地域を活性化していくため、区民が主体となった取り組みを進めています。

### ビーチバレーボールで 地域活性とスポーツ振興を

ビーチコートを用意した永福体育館がリニューアルオープンしたのは2018年9月。既存の永福体育館は老朽化が著しく改築が必要でしたが、現在地での建替えは困難だったため、近隣にある学校統廃合で閉校した旧永福南小学校跡地に移転し、その校舎や体育館を改修して新たな永福体育館に生まれ変わりました。

東京2020大会も見据えて造られたこのビーチコート。事前キャンプ地として登録されているビーチコートは全国でも6箇所しかありませんが、そのほとんどは海岸の砂浜に設営されており、街中で、体

育館や会議室もあるビーチコートは非常に希少です。

また、2018年11月には、

前全日本男子バレーチーム監督の南部正司氏を「オリンピック

ク・パラリンピック・スポーツ

ツアドバイザー」として迎え、

氏の海外遠征経験などに基づ

き、ビーチコートの活用によ

る事前キャンプ誘致をはじめ

とし、様々な助言を受けてい

ます。そのような中、氏のご

尽力もあり、イタリアオリン

ピック委員会から、永福体育

館に整備したビーチコートを

活用して、ビーチバレーボー

ルチームの事前キャンプを実

施したい旨の申出を受け、2

019年5月9日に「イタリア

アオリンピック委員会（CO

NI）と杉並区のビーチバレー

ボール事前合宿に関する協定

書締結式」を行いました。こ

れは2020年7月14日から

22日までの期間、国際競技連

盟の基準を満たしたビーチ

コートがある永福体育館を、

イタリアのビーチバレーボー

ルチームの練習場所として提

供するものです。



協定書締結式(左:CONI事前合宿統括責任者 右:田中区長)

この決定を受け、ビーチコー

トの壁面には区在住のイタリ

ア人アーティストが描いた大

きなタペストリーが飾られる

など、区民の間でも、どのよ



事前キャンプ地をPRする横断幕

うにイタリアビーチバレーボールチームを「おもてなし」する色々なアイデアが飛び出し、イタリア選手団を迎える準備は万端。杉並区民の熱い応援が、強豪イタリアチームの活躍を強く後押ししていきます。

ビーチバレーボールは海外での人気は高くメジャーなスポーツですが、日本での競技人口はまだ少なく、今後の普及が期待されます。イタリアチームの事前キャンプは、ビーチバレーボールの魅力を区民に伝え、杉並の魅力を世界に伝える大きなチャンスです。永福体育館はビーチバレーボールのみならず、ビーチテニス、ビーチサッカー、ビーチラグビーやビーチハンドボールなど、様々なサンドスポーツに利用可能です。杉並区では、今回の事前キャンプをきっかけに、子どもから大人まで気軽にサンドスポーツに親しめる施設として、東京2020大会以降も区民の健康づくりに役立てようと考えています。

### これが杉並の底力、 「チームナミスケ」いざ発進！

もうひとつ、杉並区が注力しているのは区独自のボランティア「チームナミスケ」です。この「チームナミスケ」は、東京2020大会をきっかけに、杉並区交流協会、杉並ボランティアセンターと連携しスタートしたボランティアで、区内在住、在勤、在学の方なら誰でも気軽に登録できることが特徴です。

現在、10代から80代まで幅広い年齢層の方およそ600名と4団体（2019年10月



「チームナミスケ」のユニフォーム

末現在）が登録しています。また、登録にあたっては、語学やイベントをはじめ、環境・美化、防犯・防災など、自分が携わりたい分野を選択し、自分のスキルを活かした活動に携わることができます。

なかでも特徴的なのは、「ホームステイ・ホームビジット支援」というボランティアです。杉並区のホームステイ・ホームビジットは、対象者を区と交流のある国内外の自治体等に限定し、顔が見える関係で、安心して自宅に迎え入れることができます。2020年7月から9月には、期間



「チームナミスケ」の活動の様子(ボッチャ体験会)

限定で、区立施設を活用したホームステイ・ホームビジットも計画しており、区と交流のある国内外の自治体の小中高生や海外から来日する大会ボランティアも受け入れ、区民が主体となって交流をしていく予定です。

競技の応援や観光だけではなく、暮らすように滞在して人や地域とふれあうことで、杉並の良さをもっと深く伝えることができるはず。住宅のまちならではのおもてなしによって、来訪者にとって杉並が第二のふるさとになることが期待できます。

東京2020大会をきっかけとし、区民が主体となり地域に参画していくことで、地域活性化体制がしっかりと根付き、区の発展の原動力となることを確信して、杉並区は区民の皆さんと力を合わせていくことでしよう。

